

そよかぜだより

第99号

発行 2010. 8. 15

毎月1回発行
社会福祉法人
そよかぜ

連絡先

ひばり園 578-0855
FAX 578-0466
くれよん 578-2575
つくしの家 578-0855
エール 570-1233
スマイル工房 578-2723

資源回収時のご連絡は
「ひばり園」へ

インクルーシブ教育（障害児が通常学級へ）の行方は

文科省関係から慎重論が続出

障がい者制度改革、合意形成を模索

前々回のそよかぜだより（97号）で、政府の障がい者制度改革推進会議（以下・推進会議）が「障害の有無にかかわらず地域の小中学校に就学し、通常学級に在籍することを原則にし、特別支援学校を選択することもできる制度」（インクルーシブ教育）へと転換する意見書を取りまとめたことのお知らせしました。この意見は6月29日に政府の方針として閣議決定されました。

ところがその後この方針に対して、文部科学省、教育関係団体などから慎重論がでてきました。基本方針と慎重論との間の合意形成をどのように進めるかが今後の大きな課題となってきました。

文部科学省の下に設置された「特別支援教育の在り方に関する特別委員会」の会合が7月20日に開かれ、推進会議の意見に否定的な声が多く聞かれました。

全国連合小学校長会の向山会長は、現在の通常学級に発達障害の子どもが3%程度在籍することからアンケート調査を行い現場の教員が困っていることを三つ選んでもらったところ、①友達とのトラブルが絶えない（66%）②その子が原因で授業に支障が出る（62%）③集団行動ができず指導ができない（52%）が挙げられたとの結果を強調し、慎重な議論を求めました。さらに、全国特別支援学校長会の尾崎会長は「特別支援

学校はインクルーシブなシステムの中で機能しており、同じ方向とされている。インクルーシブ教育の枠内でやってきたと思っている」と主張しました。

向山会長の意見は、現状のまま通常学級に障害児が入ってくる授業が出来ないから推進会議の方針に賛成できないということであり、尾崎会長の意見は、現状がすでにインクルーシブ教育になると理解しているから転換する必要はないとする意見です。さらに特別支援学校関係者からは、「通常学級に在籍することを原則にすると、特別支援学校・学級の設置根拠がなくなり、専門性のある教員の確保や、障害に合わせた教育環境の整備が計画的にできないくなる恐れがある」と基本方針を問題視する意見が多く出されました。

ご協力ありがとうございました。 7月の募金 34,457円
(順不同) 平成21年4月～22年7月の合計 155,361円

若松 時義 様	とまと美容室 様	北野 浩美 様
帯刀 幸子 様	藤野 和子 様	橋本 亜紀子 様
天満 喜代子 様	井上 誠一 様	阿部 郁子 様
山下 暉枝 様	大野 元雄 様	臼井 道代 様
宇津木 牧夫 様	濱野 岬 様	山影 幸子 様
清水 賢 様	古沢 奈保美 様	小沢 達子 様
清水 知子 様	山崎 六雄 様	田中 稔 様
袴田 実 様	国本 昭治 様	田村 由親子 様
川崎 利男 様	村野 理子 様	田村 千佳 様
榎本 正代 様	清水 キヨ子 様	長谷川 キヌ子 様
松岡 竹子 様	尾又 恭子 様	角野 克子 様
角野 満壽子 様	竹内 照夫 様	渡辺 四郎 様
大内 たま子 様	土屋 三枝子 様	関村 理 様
永岡 智恵子 様	桜沢 喜作 様	関村 英希 様
平野 喜子 様	下田 コウ 様	関谷 博 様
吉野 満里子 様	ア-サロンカワノ 様	榎八洋 様
ア-バンデックス 様	匿名様(3,040円)	

ご連絡は、ひばり園へ
羽村市栄町3-3-1
042-578-0855

くれよん7月の売上げ
817,550円でした。

羽村市内の小中学校と中学校の生徒のみなさんが、各学校単位でプルトップ収集にご協力して下さいます。ありがとうございます。

社会福祉法人 そよかぜの

《資源回収》に

ご協力をお願いします
新聞、雑誌、ダンボール
(ボロは扱っていません)

7月は27,480tでした。金額は473,743円となりました。
この収益は、社会福祉法人そよかぜの運営資金になります。
みなさまのご協力ありがとうございました。

9月は第3日曜日19日です。

猛暑の中の夏休み、行き先がない人も

居場所があつた昔の社会

現代、福祉では支えきれない孤立化

今年の夏はたいへんな猛暑が続いています。この暑い中、ひばり園では夏休みに入りました。取引先の企業に合わせ、毎年のことですが夏休みは約十日間ほどの大型連休になります。普段の祝祭日に出勤してその日数をゴールデンウィークや夏休みに加えて大型にしています。暑いさなかに連休が取れるので、利用者はさぞ喜んでいるだろうと一般のみなさんは思われるでしょう。たしかにそう考えるのが普通なのですが、ひばり園の場合、ことはそう簡単にはいきません。

待ちに待った夏休み、家族そろって楽しい旅行に出かけるといふ普通のこと、普通どおりにできるのは実は恵まれた家庭をもっている人だけのことです。そのような利用者もたしかにいます。一方には、旅行などにはまったく縁のない生活をして

いる人も、けっして少なくありません。旅行などは夢のま

た夢、唯一の行き先のひばり園が休みとなれば、どこにも行き先のない人もいます。そ

の人たちにとって大型連休は、とくに夏休みは、どうやって暑

い十日間を過ごすか、楽しみどころか悩みの方が多いためです。それを思うとこちらまで憂うつな気分になってしま

います。前に、生活保護を受けながら一人暮らしをしている男性に、夏休みの過ごし方を聞いたことがあ

ります。「部屋のなかでは昼間は暑くて居られな

いけど、お金がないからどこへも行けない。そこで公園へ行

って日陰のベンチで本を読む」とい

います。「えー、本を」といってそれを見せても

らうと、知的障害がある彼にはと

「何もしないで同じところにじーとしてると変だから」とい

いました。おそらく彼は、誰かがベンチに座って長いあい

だ本を読んでいる姿を見て、それなら自分にもできると思

ったのでしよう。頭をフルに使

って考え出した方法が本を開いて膝の上に置くことだった

のです。八月は終戦記念日もあ

ってなんとなく回顧的な気分になる時

です。六十五年前の暑い日に戦争が

終わりました。そのころ子どもだった私の夏休

みを思い出しました。瀬戸内海に面した小さな田舎の村で、

小高いところに神社がありました。神社のまわりには大きな木立があり、いつも涼しい

一人です。膝に本を置くこともなく仲間の一人でした。

昔のことでもあり、田舎と都会のちが

いもあ

るでしょう。いまはどこを探してもみんなが一緒に集まって過

ごす場所

はなくなり、五年前といえ

ば福祉という言葉

が、いまは

どこを探してもみ

ない。五年前といえ

ば福祉という言葉が、いまはどこを探してもみない。五年前といえ

精神に障害がある人は、まずまず社会の片すみにお

いやられてしま

います。いまや福祉は

ほとんど進歩

して、実に多種多

様な福祉サービスが

用意されています。専門

家でさえ分厚い資料を

めくりながらでなければ

説明できないほどです。

にもかかわらず自殺者

の数は12年連続で3

万人を超えました。虐

待事件の多さは目を覆

うばかりです。困難を

抱えながら孤立する

人や家族は増えつづ

けています。現代社会

は、人と人のきずなが

なくなり、人間関係が

希薄になりました。民

主党は昨年夏の総選

挙で「きずなな社会

をつくる」とマニフェ

ストで訴え、政権に

就きました。さらに

菅首相は先の国会の

所信表明演説でこの

構想に触れ「一人

ひとりを包摂（ほう

せつ）包み込み」す

る社会を目指す」と

述べました。壊れた